

国際標準化活動を行うには、規格審議を行う会議参加だけではなく、海外との仲間づくりも重要となってきます。これら活動を主体的に行っている鉄道国際規格センターは、2020年4月で発足して10周年を迎えます。この間、ISO/TC 269やISO/TC 269内に三つの分科委員会の発足、新宿オフィスから千代田オフィスへの移転、2回のIEC/TC 9総会およびISO/TC 269総会が行われました。これら活動を円滑に行うことができたのは、関係各位の尽力のおかげであると感じております。

この業務を行っているISOとか、TCとか、SCとか数多くの略語があり、8年前の配属当初は先輩たちが話していることがわからない言葉を多く発しているなあと感じていましたが、今では自分が当時わからなかった言葉を連発しているなあ

と感じています。ことわざに「桃栗^{ももくり}三年、柿八年」とありますが、次の句を調べると、枇杷は9年、柚子は9年、梅は13年、梨は18年というよう、種々あるようです。海外のメンバーも梅や梨以上に長い年月、国際標準化に携わっているメンバーが多くおり、日本でも国際標準化を長く携わる人材を育成していくことが必要であると感じています。これからも多くの方にご協力をいただきながら、鉄道の国際標準化活動を継続していきたいと思っております。

来月号の特集は「鉄道の新しい電力技術」です。鉄道の電力供給のエネルギー効率向上やメンテナンス性の向上を実現する新しい技術について、最近の研究開発動向を紹介します。どうぞご期待ください。(A. H.)

■2019年7月号の訂正とお詫び

RRR誌2019年7月号に誤植がございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

頁	記事	箇所	誤	正						
31	鉄道技術 来し方行く末	左段12行目	倍率がさらに小さくなります。図3に	倍率がさらに小さくなります。図4に						
		表5	<table border="1"> <tr> <td>平面性</td> <td>mm/2.5m</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> </table>	平面性	mm/2.5m	3	6	<table border="1"> <tr> <td>平面性</td> <td>mm/2.5m</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </table>	平面性	mm/2.5m
平面性	mm/2.5m	3	6							
平面性	mm/2.5m	5	6							
36	研究開発 七つ道具	図1	測定点：列車突入側坑口から27 km	測定点：列車突入側坑口から2.7 km						